

<全体分析>

試験時間

80 分

解答形式

長文総合問題3題, 自由英作文1題。

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・**変化なし**・増加) 難易 (**易化**・変化なし・難化)

昨年度は大問3題で合計1,629語だったが, 本年度は1651語。分量はほぼ前年通り。ここ数年大問一題のワード数は500語程度で安定している。ただ難易度は, 本年度は昨年度に比べて大幅に易化し, 標準的なレベルに戻った。特に昨年度は大問ⅢとⅣが難問で, 受験生の多くが時間内では処理できなかったはずであり, 今年度も昨年並みのレベルを想定していた受験生は, 肩すかしを食らった気分だったのではないかと。

出題の特徴

大問Ⅳは, 昨年度に引き続き自由英作文の出題。ただし, 昨年度は対話文の空所を想像力で補う空所補充の英作文と, ビジュアル素材に基づく自由英作文の2題構成という極めて新傾向の出題であったが, 今年度はまとまりのあるひとつのパラグラフを書かせる2題構成の標準的な問題となった。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合 (563words)	子供の睡眠パターンに応じた学校の始業時間の改革	問2は30字以内という字数制限に収まるように, 要領よくまとめるのはやや難しいと思われる。 問4は下線箇所を含むパラグラフの後半部分をまとめればよいが, teachers' group の観点がまとめにくい。このパラグラフの最終文の their schedules の their は children ではなく teachers を指す。つまり「(教師たちは始業時間と授業の終了時間が遅くなることで,) 帰宅の時間が遅くなり, 自分たちの予定に支障が生じたり, ラッシュ時間に巻き込まれる」という事態を恐れているのだという内容だが, それが正しく理解できただろうか。 出典は Karen Weintraub, <i>Young and sleep deprived</i> であるが, かなり大がかりなリライトが行われている。	やや易
II	読解総合 (581words)	母集団と標本について	記号問題は, 問3にやや迷うかもしれない選択肢があるが, あとは極めて平易。 出典は Frederick J Gravetter, Larry B. Wallnau, <i>Statistics for The Behavioral Sciences</i> . リライト箇所は多い。	易

III	読解総合 (507words)	英国に旅行に来た米国人旅行者との会話	昨年度は、Richard の略称が Dick であること、父と息子が同じ名前ということが英米ではありうることなど、文化的背景の知識がないと、解答に手を焼くと思われる極めて難問だったが、今年度は平易な設問である。 問1は会話文の中に登場する仮定法過去を、自然な日本語になるように工夫して欲しい。 出典は Bill Bryson, <i>The Road to Little Dribbling: Adventures of an American in Britain</i> 。こちらもかなり大胆なりライトがなされている。	やや易
IV	英作文 (124words)	the Bandwagon Effect について	昨年度は極めて意欲的な新傾向の出題であったが、今年度は自由英作文としては標準的な問題であった。 「バンドワゴン効果」とは、複数の選択肢があるときに、注意深く考えることなく付和雷同で1つの選択肢を選んでしまう傾向について述べた言葉で、マーケティングなどで用いられる用語の1つである。この言葉の意味を、問題文の簡潔な説明から把握できない場合、見当違いの解答になってしまった可能性が高い。そうした読み違いの有無が、合否を分けてしまったのではないかと。 また、どのような例を書くかを考えすぎると、時間内にまとめることができなかつたとも思われる。要領のよい答案作成を心がけたい。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

英語長文問題のワード数は昨年度や一昨年度とほぼ同じで、3題で合計 1700words 弱。ただし、昨年度は大問Ⅲの小説文と大問Ⅳの自由英作文が極めて難問であり、最後の自由英作文までたどり着けなかった受験生も多かったと思われるが、今年度はほぼ標準的なレベルに戻った。80分という時間を考えると、質量ともに適切な水準だと考えられる。

これまでの神大の出題パターンを考えると、来年度は揺り戻しで難化する可能性が高いと思われる。易化の傾向が続くとは考えるべきではない。かなりの質量を伴う問題に対処する能力を養うためには、一步一步地道な学習を続ける以外に、成績を伸ばすための近道はない。文法や構文に熟知する、単語や熟語を覚える、問題演習を繰り返す、復習を欠かさないなど、「オーソドックスな学習」を継続することが神大合格につながるはずである。

長文総合問題では、パラグラフのメッセージを大きくつかみながら、長文をスピーディーに読み解いていく能力と、一文一文丁寧に構文をたどりながら精読していく能力とが求められている。単語や文法・構文をこつこつと学んでいくことと、長文総合問題を限られた時間内で解いていく実践的な練習とを平行して進めていこう。下線部和訳や内容説明などの記述力を要求される設問の比重が大きい。ここでの出来が合否に大きく影響するはずである。日頃の学習においても「頭の中で解答する」だけではなく、きちんとノートに書くことを心がけよう。

自由英作文はまとまりのあるパラグラフを書かせるという標準的な設問であった。ただしどのような例を書くかを考えすぎると、非常に時間を取られてしまう恐れがある。配点は 25 点にとどまるので、時間配分を考慮した戦略的な解答作成が求められるだろう。常日頃の学習においても、時間配分を意識した解答作成を心がけたい。